

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那特別支援学校

学校番号

117

学校教育目標	児童生徒一人一人の病気や障がいの状態に応じた適切な支援を通して、「児童生徒一人一人が輝く」教育を目指す
--------	---

自己評価【小学部】

評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動と地域資源の活用を通じた学びの充実を図るとともに、家庭との丁寧な連携及び、地域への積極的な情報発信に取り組む。 ・学習状況を的確に捉える力と学習評価の在り方とICTを活用した学習活動の実践についての課題がある。 ・働き方改革を意識した業務の見直しや精選、同僚性を高める組織的体制づくりと組織力の強化に取り組む。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた学習活動の充実・改善（キャリア教育、地域資源の活用等）と家庭や地域への情報発信。 ・個々の教員の指導力向上のための積極的なICT活用の促進と実践の蓄積。 ・職員の危機管理意識の徹底と疾病・事故の未然防止対策及び教育の強化。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、学部会、教科会、学年主任会を通じた取組の推進。 ・学部の役割や各々の分掌、専門性を活かした推進役の位置付け。 ・各分掌の取組との連携（教科会、キャリア教育、主題研究、学校安全等）。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた「支援と評価の年間計画」の作成や教科会を中心とした授業実践の見直しと改善。 ・発達段階や生活年齢に即した授業実践や改善、地域資源の活用等。 ・ICTを活用した教育活動の実践と共有。 ・児童の健康・安全を守る教育環境の整備と防災教育の充実。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価 ・職員アンケート及び職員からの意見 ・連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想 ・学校評価アンケート
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な姿と協働的な学びを重視した教育活動を推進し、日常の係、当番活動の充実や地域資源を活用した学びの場の工夫を行った。 ・ICT（アバターロボ）を活用した居住地校交流や校外学習等の取組を行った。 ・該当分掌と連携し、小学部段階におけるキャリア教育の推進や、事故防止のための全校職員への情報提供や対応の周知を行った。
評価の視点	評価
① 児童一人一人の目標に対する学習の成果や、もてる力の伸長が認められたか。	A (B) C D
② 学習指導要領に基づいた学習の計画・実践・評価を実施することができたか。	A (B) C D
③ ICTを活用した学習活動の工夫・改善に取り組み、実践の蓄積ができたか。	A B (C) D
④ 児童の健康・安全を守るために、組織的に取り組むことができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○低学年は身近自立等自分でできるよう丁寧な指導を行い、学年が上がるにつれて自分たちの力で目標に向かって成し遂げる協働的な活動を行うことができた。</p> <p>○保護者と連絡帳や学級通信等を通して丁寧な連携を行うことができた。また地域や公共施設の方との関わりや交流等、さまざまな学びの場を工夫した。</p> <p>▲個に対応した支援指導に関して、共通理解が十分でなかったり、根拠が曖昧だったりする。ICTを活用した具体的な実践の蓄積と共有が必要である。</p> <p>▲小学部の6年間だけでなく、中高および卒業後の生活を見通した長期的な視点についての弱さが教師にも保護者にもある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びに対応できるよう「学習到達度」や「日常生活の指導」のチェックリストの活用を行う。 ・効率的な情報共有ができるよう、ICT活用や居住地校交流等の具体的実践について学部会で交流する時間を設定する。 ・将来を見通した視点もてるよう教師が進路やキャリア教育に関する研鑽を積むとともに保護者にも直接施設見学ができるような機会をもつ。

自己評価【中学部】

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や人材の活用と連携を図った学習を推進する。 ・連絡帳や通信、ホームページ等を活用しながら、学校での学習内容を分かりやすく伝え、保護者との信頼関係の強化を図ることが必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣を確立する。 ・学年間で系統性をもたせた教育計画の作成と実施。 ・連絡帳や通信、懇談等を通して、保護者との効果的な連携を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任会や教科担当者会、学年会、学部会が連携した支援体制 ・校内および関係機関とのケース会議による校内外との連携会議
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育や自立活動、日常生活の指導の視点を大切にしながら3年間を見通した教育計画を作成する。 ・連絡帳や通信、HP、懇談等、連携ツールを活用した保護者との共通理解の形成を進める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価アンケート ・職員アンケートや職員からの意見 ・連絡帳や懇談会等での保護者の意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の系統性を考慮しながら、地域資源や人材を活用した校外学習・泊を伴う校外学習を計画・実施した。 ・系統性や関連性を図るための手立てを用意し、部内で共通理解を図った。
評価の視点	評価
①生徒が楽しく生き生きと学校生活を送ることができたか。	Ⓐ B C D
②生徒の情報が職員間で十分に伝わり、個々に応じた適切な対応ができたか。	A Ⓑ C D
③保護者や関係機関との協働・連携がとれたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>○日常的に情報交換し生徒理解や指導方針を共有して、チームでの支援を進めた。また、指導方法等を気軽に相談できる雰囲気が職員室内に広まった。</p> <p>○地域の方との交流を深め、生徒が積極的にコミュニケーションをする姿が増えてきた。</p> <p>▲学習や行事等、学部間のつながりの把握が弱く、系統的に学習を行うことが難しい。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間だけでなく、小学部や高等部、卒業後も含めた「生き抜く力」「学力」を育てる教育計画を学年会や教科会で再検討する。 ・学年会等で単元のねらいを明確にするとともに、評価の仕方（場面、観点、方法）を共通理解する。 ・学部会の中で、生徒のよさや身に付けさせたい力を部内で交流できるような場を設定する。

自己評価【 高等部 】

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識を持ち、十分な引き継ぎや連絡により、全職員が情報共有の徹底を図る必要がある。 ・生徒の活動内容を、保護者、地域への情報発信の工夫が必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や電話等を利用して、保護者との連携を密にとる。 ・生徒一人一人の発達段階や学習到達段階に応じた指導により、自己実現を目指すための基礎的、基本的な知識と技能を育成する。 ・感染対策を徹底しながら喜びを実感できる指導内容・指導方法を追究する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、学部会、各分掌からの提案を積極的に取り上げ、連携を図りながら、生徒一人一人にあった支援体制を構築する。 ・校内、校外の関係諸機関とのケース支援会議を行い、迅速に対処する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた学習、生活支援の充実を図る。 ・学級通信を定期的に発行し、連絡帳や懇談等で保護者と意見交換を密にし、気になる点は学部・学年で共有し、組織的に対応する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想 ・学校評価アンケート及び職員からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報を学部内で共有し、必要に応じて校内外でのケース支援会議を実施した。 ・生徒や保護者に卒業後の就労先について話し合う機会を提供した。 ・働くための基礎的な知識や態度を学ぶ場を多く設定し、卒業後を見据えた支援に心がけ、現場実習等を通して関係機関との連携ができた。
評価の視点	評価
① 保護者や校内外の関係諸機関と連携し、協働して生徒個々の支援ができたか。	A (B) C D
② 進路実現に向けた学習や生活支援の充実を図ることができたか。	(A) B C D
③ 職員共同による事業推進、問題解決を図ることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○情報の共有に努め、外部の関係諸機関との連携を図りながら、問題の早期解決に向けて学年や学部全体で取り組めた。</p> <p>○進路実現、進路意識向上に向けて担任・学年団・進路支援部が連携し、各学年に応じた支援を充実することができた。</p> <p>○「働く人になる」という目標を常に意識し、作業学習や職業の授業を中心にあらゆる機会を通して、生徒の実態に合わせた指導支援を行った。</p> <p>▲経験豊富な特定の教員にどうしても負担がかかる場面があるので効率よく分担していく。</p> <p>▲進路実現に向けた学習・生活支援を更に充実させる。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の進路実現に向けて企業内作業学習、現場実習の評価等を詳細に分析して検討し、3年間を見据えた学習・生活支援の充実を図る。 ・ICT機器を活用した学習活動の実践の蓄積強化。 ・HPや校内掲示、そして分掌・学年通信などを積極的に利用し、生徒の充実した活動内容を外部へ積極的に発信していく。 ・できるだけ来年度へつながらるように複数で取り組んで個人で抱え込まないようにし、働きやすい職場環境を学部全員で目指し、組織で取り組む体制を確立する。

自己評価【 教務部 】

年間目標	・児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動と学習評価の充実を図る。
現状及びアンケートの結果分析等	・学校関係者評価では ICT の活用や地域連携による体験学習等に関する要望があり、更なる取組の充実が求められる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・小・中・高系統性のある教育課程の編成と教育の質の向上 ・業務の効率化 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域や家庭との連携・協働 ・タブレットを始めとする ICT 機器の効果的な活用と機器の管理
重点目標を達成するための校内組織体制	・学部内、各学部間での情報共有と検討の場となる教科会の運営 ・学習支援に関わる情報の集約と共有 ・学校運営協議会と連携した教育活動、地域資源の開拓と教育計画への反映 ・ICT 推進学年担当と連携した 1 人 1 台タブレット活用の推進
目標の達成に必要な具体的取組	・学部内と学部を超えての教科会を実施し、系統性のある教育活動の見直しや指導方法の向上につなげる。 ・教科会を軸とした教育内容や指導方法等の改善を行うとともに、ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できるよう教材の共有フォルダ等の整備と管理を行う。 ・「学校だより」の内容見直しと年間 3 回の授業参観を実施する。また教育方針の一つである「地域とともにある学校」の実現のために「ホットいわむら」での情報発信や地域資源の活用を充実させていく ・教科用図書（☆本等）の指導書を年間計画作成と学習評価に活用できるよう周知を行う。 ・1 人 1 台タブレットを活用した具体的実践を蓄積し、共有していく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校運営協議会、PTA 役員、保護者、関係機関からの意見 ・学部会、職員会、アンケート等による職員からの意見 ・児童生徒の学習状況
取組状況・実践内容等	・教科会を 2 回実施。学部間の情報共有と系統性ある教育活動への検討 ・デジタル出席簿の円滑な運用に向けた取組 ・Teams の校内での運用推進。希望者へのタブレットの貸与とオンラインを活用した教育活動の充実
評価の視点	評価
① 家庭や地域と協力した教育活動が推進できたか	A (B) C D
② ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できたか	A (B) C D
③ 児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動が実施できたか	A (B) C D
④ 学校の教育活動が分かりやすく情報発信することができたか。	A (B) C D
成果 (○)・課題 (▲)	総合評価
○「学校だより」や「ほっといわむら」など、内容を吟味した情報発信。 ○アバターロボットの活用等による、より主体的な学習活動の可能性。 ○居住地校交流や学校間交流の計画的な実施。 ▲校務支援システムへのスムーズな移行 ▲全国高等学校総合文化祭・全国障害者芸術文化祭に向けた計画と参加 ▲行事、校外学習、宿泊学習など、感染症対策期間を乗り越えた上での見直し	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・校務支援システムの入力や操作についての研修の実施。専門的に扱える職員を増やし、計画的に無理なく移行する。 ・全校が芸術・文化祭等への意識を高めるよう、学部間の連携を図り、専門家等による助言や授業を仕組み、芸術作品作りや発表に取り組めるようにする。

自己評価【 特別支援部 】

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究を軸として職員のニーズに応じた研修会を計画・実施し、教師としての指導力向上を図る。 ・関係諸機関との連携を密にして支援体制の充実を図り、地域の相談ニーズに対応する。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防を優先しながら職員のニーズに応じた研修を実施するために、内容の精選や実施方法の工夫が必要である。 ・諸機関における地域支援センターの認識は高まりつつあるが、地域支援センターからの具体的な情報発信や連携体制の構築は十分とは言えない。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究や校内研修を通して校内の教職員の専門性向上と教育実践の充実を図る。 ・地域の要請に応じて特別支援教育についての理解や支援の充実を図り、関係諸機関との連携を取りながら、地域支援センターとしての役割を果たす。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任・学部主任を中心とした学部内・学部間の連携 ・教職員の専門性向上のための情報発信と研修会の計画・実施における他分掌との連携 ・各学部・分掌、特別支援教育コーディネーターとの連携・協働 ・他校の特別支援教育コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等の活用
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等を活用して職員のニーズを把握し、主題研究や研修を計画的に計画・実施し、実践力の向上を図る。 ・資質の向上に役立つ情報の収集し、回覧・レポートや通信にて発信する。 ・校内外のニーズに応じて、医療、福祉、労働等の関係諸機関との連携協力を図る。 ・必要に応じて地域の特別支援コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等を活用する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究・研修に関する職員アンケート ・センター的機能事業実施状況や利用者からの意見 ・関係機関やPTA役員等からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究では、作成した自立活動の個別の指導計画に基づいて授業実践を行い、ペアグループでの検討や全校研究会における実践報告を行った。 ・職員のニーズを反映しながら「ちょこっと勉強会」を計画・実施するとともに、通信や教材・教具展を通じて、情報の提供・共有を図った。 ・園や学校からの要請に応じて支援業務を実施した。
評価の視点	評価
① 指導力向上のために適切な研修の計画・実施や情報の提供ができたか。	Ⓐ B C D
② 主題研究の活動が自立活動の授業実践力の向上につながったか。	A Ⓑ C D
③ 関係各所との連携を図り、センター的機能のニーズに対応することができたか。	A Ⓑ C D
④ 地域の諸学校や保護者への情報提供を工夫し、理解啓発が図れたか。	A B Ⓒ D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○他分掌や関係機関と連携を図りながら研修を計画実施できた。 ○授業実践により主題研究が深まるよう計画的に進めることができた。 ○センター的機能が周知され、利用が増えてきた。 ▲任意研修への参加者の固定化や研修実施日の集中による多忙感が生じた。 ▲校内、地域、保護者共に情報の提供・共有が不十分であった。 	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・午前授業にするなど職員の専門性を高めるための機会や時間を確保する。 ・特別支援教育コーディネーターの役割を明確にし、活用しやすくする。 ・見やすく情報提供し、気軽に相談や参加がしやすいようにHPを整備する。

自己評価【 健康安全部 】

年間目標	・児童生徒及び職員の健康・安全のために、傷病・事故災害の発生を未然に防ぐための危機管理、傷病・事故災害発生時の危機管理、事後の危機管理について、職員全体で組織的に取り組む。
現状及びアンケートの結果分析等	・命を守る訓練の実施や気象警報発表時の対応等、児童生徒の安全に気を配っている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	三つの柱：健康・安全教育、健康・安全管理、組織活動 ・感染症対策（衛生管理）への組織的な取組 ・健康・安全にかかわる各マニュアルの見直しと周知 ・危機管理・安全管理に関する情報発信による事故や傷病の未然防止 ・健康教育・食育・安全教育の推進 ・保護者や関係機関との連携や協力体制づくりの推進。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学校保健安全委員会（学校医、管理医、学校薬剤師等）、医療的ケア検討委員会（主治医・指導医との連携）、食物アレルギー対応委員会、防災委員会、学校安全衛生委員会（産業医との連携） ・全職員による月一回の安全点検 ・ヒヤリハットと事故報告
目標の達成に必要な具体的取組	・医療的ケア研修・緊急時対応訓練・食物アレルギー研修・救急救命法研修・歯みがき教室・ヒヤリハット報告の分析と対応・防災計画の改善・命を守る訓練と防災教育の取組の工夫・アレルギー対応や異物混入への対応・健安ハンドブックの活用・感染症対策マニュアルの改訂と周知
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・校内の事故・ヒヤリハット発生件数 ・医療的ケア検討委員会や学校保健安全委員会、安全衛生委員会での検討 ・消防署、安全点検チェック表や清掃状況のチェック・確認 ・各種訓練や研修会後のアンケートによる職員からの意見 ・児童生徒・保護者・職員へのアンケート
取組状況・実践内容等	・当校感染症対策マニュアルの見直し。調理実習やプール活動の授業の再開。 ・ヒヤリハットの報告や安全点検強化週間の実施。安全点検項目の見直し。 ・性教育や救急救命法についての職員研修の実施。体験や調べ学習を重視した防災学習の実施。 ・主治医や指導医と連携した医療的ケアの安全な実施。消防署の指導を受けての防災訓練の実施。
評価の視点	評価
① 傷病・事故を予防するための危機管理ができたか。	A B C D
② 傷病・事故発生時に迅速且つ適切に対応することができたか。	A B C D
③ 傷病・事故発生時や災害発生時の対応について周知・徹底できたか。	A B C D
④ 外部専門機関との連携を図り、指導・助言を活かすことができたか。	A B C D
⑤ 保護者・地域関係機関に対して理解や協力を得られたか。	A B C D
成果（○）・課題（▲）	総合評価
○校内の感染症マニュアルを見直し、マスクの適切な使用や手洗いの指導等、特に平常時の感染防止について周知することができた。 ○日常の安全点検の呼び掛けやヒヤリハットの情報共有により、危険箇所を早めに把握し対応することができた。 ○さまざまな想定の日防災訓練を行い、課題を見付け、見直すことができた。 ▲ヒヤリハットの報告について、積極的な取組とはなっていない。 ▲防災学習で取り組む内容を整理し、学年に応じて系統的に学べるとよい。 ▲医療的ケア校外学習充実事業が開始されたが、立案の段階で、十分な検討ができないことや、教師間の連携不足等があった。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・教師の危機管理意識の更なる向上につながるように、ヒヤリハットの情報共有と安全点検強化週間を定期的に行う。 ・防災学習の内容・コンテンツの整理を担当中心に行っていく。 ・医療的ケア対象児童生徒の担任だけでなく、全職員に医療的ケア校外学習充実事業について周知し、余裕をもって計画的に立案できるようにする。

自己評価【 生徒支援部 】

年間目標	・児童生徒が安全かつ安心して充実した学校生活を過ごせるよう、学校生活全般を通して積極的な生徒支援に努める。
現状及びアンケートの結果分析等	・教師が愛情をもって児童生徒に接し、良好な関係にある。 ・MSリーダーズ活動やボランティア活動等、将来の社会自立につながる力の育成が推進できている。 ・「いじめ防止基本方針」に基づく取組の成果が周知されてきているが、十分ではない。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・かけがえのない命の尊さや社会生活を送るのに必要なルールやマナーを個々の状況に応じて体得できるよう教育活動全体を通して支援の充実を図る。 ・仲間とともに、生き生きと活動するために必要な態度や能力の育成をめざす。 ・関係諸機関との連携を図り、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた生徒支援に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・生徒支援部、MSリーダーズを中心とした学校体制 ・児童生徒の共通理解が図れる連携体制 ・関係諸機関との日頃からの連携体制
目標の達成に必要な具体的取組	・安全・安心した学校生活のための支援、社会生活に必要なルールやマナー指導等の安全に関する支援・指導の徹底 ・仲間とともに、生き生きと活動できるような児童生徒主体の活動を実施 ・心のふれあいを大切に、温かい人間関係を醸成する教育活動 ・児童生徒理解の深化、保護者や関係機関と連携した適切な教育相談活動の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学部会や職員会による意見 ・児童生徒の集団活動への参加態度 ・いじめの有無や児童生徒間の協力関係の把握 ・学校関係者評価
取組状況・実践内容等	・交通安全教室、自力通学指導、運転手や添乗員と連携した安全指導。 ・全校集会、ひびきあい活動、児童生徒会活動等を通じた特別活動の充実や人権意識の高揚。 ・児童生徒会、委員会活動、MSリーダーズ活動等、児童生徒主体の活動。 ・部活動の充実と各種大会への積極的参加、トップアスリート出前指導実施。 ・アンケートや面談、日常的な行動観察等を通じた児童生徒理解、SCや関係諸機関等と連携した教育相談及び生徒支援体制の充実。
評価の視点	評価
① 児童生徒が不安なく学校生活を送ることができたか。	A (B) C D
② 仲間とともに生き生きとした活動ができたか。	A (B) C D
③ 児童生徒の情報が職員間で十分伝わり、個々に応じた対応ができたか。	A (B) C D
④ 個々の児童生徒について必要な連携ができたか。	A (B) C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
○教育相談週間や各種アンケートをもとに、早期の児童生徒支援につなげることができた。 ○様々な事案に対して、学部や学年間で共通認識のもと指導支援を実施できた。 ○児童生徒会活動やひびきあい活動等、自己有用感や自他を尊重する意識を育む取り組みを進めることができた。 ▲組織的な対応の継続。 ▲ひびきあい活動や児童生徒会活動、MSリーダーズ活動等のさらなる充実。 ▲スクールバス借上げコースが無くなることに伴う再整備。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・様々な事案に対して組織的な対応ができるように、体制を整備する。 ・ひびきあい活動、児童生徒会活動、MSリーダーズ活動が充実するように、活動内容を工夫していく。 ・スクールバスが令和6年度にスムーズなスタートをきることに準備をすすめる。

自己評価【 進路支援部 】

年間目標	・児童生徒が、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるように、早期からの継続的、組織的な支援を行う。
現状及びアンケートの結果分析等	・高等部の卒業後の進路を具体的に意識した取り組みは高等部に集中している。全校に進路に関する活動の紹介を通信やホームページ、PTA研修を通じて行っており、保護者アンケートでは概ね理解を得られているが、一方で「わからない」という回答もあり、情報不足である部分を感じる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・勤労観・職業観を身に付けるとともに、将来に対する目的意識をもって、自己の進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成する。 ・最新且つ必要な進路情報の提供と関係機関へ繋ぐ支援。 ・職場開拓及び卒業生への追支援。
重点目標を達成するための校内組織体制	・進路先の決定、中高作業学習やRVB、実習等を通じた、学年や学部との連携とキャリアパスポートの作成と活用等を通じた分掌間連携。 ・外部関係機関と連携した支援ネットワーク体制と交流、イベントの実施。
目標の達成に必要な具体的取組	・進路の状況や社会の動向に対応して各種実習や体験学習、作業学習、キャリアパスポート、職業に特化した取組についての見直しを図る。 ・福祉行政、福祉事業所、ハローワーク等からの定期的な情報収集と学校だより、ホームページでの情報発信及びイベントの実施。 ・就業・生活支援センターと連携した追支援と職場訪問・職場開拓の実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・授業や活動の目標達成度と適切な進路決定。 ・児童生徒、保護者、連携関係機関からの意見、感想。学校アンケート。 ・卒業生の就労、定着の状況。卒業生や就労先、関係機関からの意見。
取組状況・実践内容等	・進路だより・キャリアパスポート・作業学習集中週間(中)・現場実習、インターンシップ、企業内作業学習(高)、企業事業所見学(高) ・合同説明会への参加(中高)・職業(高)・製品販売会(中高)・労働法等外部講師のガイダンス(高)・卒後支援・進路研修(教員、保護者)
評価の視点	評価
① 個々の児童生徒に応じた進路学習ができたか。また卒業学年を希望に沿った適切な進路先へ繋ぐことができたか。	(A) B C D
② 提供できた情報は量、質ともに十分だったか。	A (B) C D
③ 外部との連携を図り、適切な卒後支援ができたか。また当校の理解啓発が進み、新たな職業や職場が開拓できたか。	(A) B C D
成果(○)・課題(▲)	総合評価
○校外での作業製品販売会ができるようになり、販路拡大に繋がった。 ○合同説明会や事業所見学会は、生徒や保護者にとって実施時期も含めて進路について考える良い機会となり、その後の懇談でも具体的な話を出しながら話し合うことができるなど卒業後の生活に対する啓発活動に繋げることができた。 ○進路だよりを通して学校での取組を紹介し、進路について見通しをもってもらえた。 ○進路指導において、市福祉課・ハローワーク・サテライトt・相談支援等の外部機関と連携して行うことができた。 ▲進路だよりやキャリア通信等を含め、キャリア教育を通して保護者に進路に関する情報や連絡をする手段や内容の充実。	(A) B C D
来年度に向けての改善方策案	・小学部や中学部の早い段階から進路について職員も保護者も意識していくことができるよう、各年代で付けておくことよ力について意識していけるような発信をしていく。 ・保護者が知りたい情報を収集し、通信やHP等で情報発信していく。 ・合同説明会と会社・事業所見学が連動し生徒や保護者がより主体的に情報を集めたり、学校内で情報収集が図れたりするような環境整備。 ・校外の製品販売会でのAirレジ使用に関わるネット環境の整備。

自己評価【 渉外部 】

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化をはかる。 ・ 学校や児童生徒をとりまく地域の人や関係機関との交流を深める。 ・ 災害時に対応できるPTA組織と意識づくり。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「コロナ禍の中で保護者同士が顔を合わせる機会が減ったことから、同じ学年の保護者の顔でさえ分からないまま3年間が過ぎている」との声が多数挙がっている。今後はさまざまな活動の企画や発信に力を入れていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種委員会活動において、会員による主体的な計画、準備、運営を図る。 ・ 各種委員会の活動内容の発信に力を入れる。 ・ 災害時に対応できるPTA組織と会員の意識づくり。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部間で連携できるような係分担、PTA各委員会の担当者を決める。 ・ PTA役員や会員との連携を図り、PTA活動を円滑に進める。 ・ 災害時に対応できるPTA組織と校内体制との連携を確立する。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTAと学校担当者との連絡を密に行い、協力して円滑な活動を進める。 ・ 研修会を通してPTA会員の学びや交流の機会を図る。 ・ 地域や岩邑小中学校に当校PTA行事などを案内。 ・ 災害時に連絡・活動できるPTA組織づくりと危機意識を高める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA役員会、各委員会が円滑に開催され、PTA行事が、役員、会員、学校と連携して効率よく開催されたか。 ・ PTA行事を地域や関係機関に向けて呼びかけ、当校の理解を深めるための活動ができたか。 ・ 災害時に対応できる組織づくりと危機意識はできたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夏まつり」を4年ぶりに開催することができた。 ・ 「恵那市・中津川市 企業・福祉事業所等合同説明会」をPTA研修会として位置付けて、今年度は全学部・全学年に案内文書を配布した。 ・ 外部講師を招いての講演会や、ロックビレッジコンサート、役員会、校外会議等、実施することができた。
評価の視点	評価
① 会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化を図れたか。	A (B) C D
② 学校や児童生徒をとりまく地域の人や関係機関との交流を深められたか。	A (B) C D
③ 災害時に対応できる組織づくりとそれぞれの危機意識がもてたか。	A (B) C D
成果 (○) ・ 課題 (▲)	総合評価
<p>○「夏まつり」では、以前より規模を縮小しての開催であったが、企画・運営をPTA主導で充実した内容で実施することができた。</p> <p>○役員会では、毎回多くの意見交換や提案がなされ、かつ円滑に会を進めることができた。</p> <p>▲「PTA奉仕活動」と「PTAと職員の懇親会」は今年度も未実施であったが、実施方法・内容について今後見直しをする必要があるかもしれない。</p> <p>▲災害時に対応できる組織づくりについては、総会時に地域ごとに集まり、顔合わせを行ったが、その後をどうするべきかについて詰めていく必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA役員や会員と連携を取りながら、行事や研修会等の企画・運営等での自主的な活動の推進、活性化を図る。 ・ 学校外での非常変災時の避難場所や安否確認方法等について、PTA会員同士で集まり確認する機会を設けることで、災害に対する危機意識を改めて高める。

令和5年度 学校関係者評価より

【意見・要望・評価等】

- 卒業生の多くが家庭と職場以外の居場所が少ない。余暇を楽しめることや場所を在学中に見つけてほしい。
- 実際に店でお金を使って買い物をしたり、予算の中で買い物をしたりする活動が大切である。
- 中学部の作業学習では、販売するだけでなく、自分たちが作ったものをプレゼントして、喜んでもらう経験ができるとうい。
- 能登半島での地震があったが普段の訓練が重要である。地元の防災士を活用した防災教育を行うとうい。
- オンラインでの取組と実体験を交え、より一層効果的な学習が進んでいる。
- 保護者の協力や理解を得ながら、地域の活動に参加できるとよい。
- 近隣の地域では、地域の学校でつながりをもって活動している組織がある。そういった組織に入れるように働きかけてほしい。
- 学校だより等の通信も利用しながらさらに情報発信して行ってほしい。

【来年度に向けて】

- 卒業後の生活（働くこと、余暇、生活）を具体的にイメージし、校内外での教育活動を計画する。
- 岩村町内の地域資源や人材を教育活動に生かせるよう学習計画を見直す。
- 保護者や地域への情報発信の在り方については、引き続きホームページや学校だより、広報等で発信し、充実を図る。
- 各学部・分掌の「来年度に向けた改善方策案」を実践する。